

22 享保の改革と社会の変容

- (1) 紀伊藩主から江戸幕府8代将軍となった、「米将軍」と呼ばれる人物の名を答えなさい。
()
- (2) (1)の人物は幕府の増収のため、参勤交代で大名が江戸にいる期間を1年から半年に短縮するかわりに、石高1万石につき100石の米を幕府に納めさせた。この政策を何というか？
()
- (3) (1)の人物が定めた、裁判の基準となる法律の名を答えなさい。
()
- (4) (1)の人物が庶民の意見を聞くために設置した投書箱を何というか？
()
- (5) (1)の人物の命で甘藷(さつまいも)の栽培を研究した人物の名を答えなさい。
()
- (6) 質素儉約、武芸の奨励、新田開発、(2)の実施、(3)の制定、(4)の設置、キリスト教に関係しないヨーロッパの書物の輸入解禁など、(1)の人物が行った一連の改革を何というか？
()
- (7) 貿易に伴う金銀の海外流出を防ぐため、幕府は長崎での貿易額を制限した。これにより、木綿や生糸、絹織物の輸入が減り、これらの国産化が図られた。a)大阪周辺や尾張で、b)桐生や足利で発達したのは、綿織物業、絹織物業のどちらか？それぞれ答えなさい。
(a) (b)
- (8) 18世紀になると、それまで自給自足に近かった農村でも、農具や肥料を購入するために貨幣が必要となった。このように、貨幣を通じて商品との交換が行われる経済の仕組みを何というか？
()
- (9) (8)の仕組みが広がると、農民にも貨幣が必要となり、借金が増えて土地を手放し、土地を借りて耕作をする者が増えた。このような土地を借りて耕作する農民を何というか？
()
- (10) (8)の仕組みの広がりにより、(9)のような者が多くなる一方で、成功して他の農民の土地を手に入れる豊かな者も出るなど、貧富の差が拡大した。他の農民の土地を買い集めた豊かな農民を何というか？
()
- (11) 18世紀頃から織物業や製糸業を中心に広がった、問屋が農民に織機などの道具や資金を前貸して生産させ、製品を買い取る生産方法を何というか？
()
- (12) 19世紀頃、大商人や(10)が工場をつかって農民を雇い、分業によって製品を生産するようになった。近代工業発展の基礎にもなったこの生産方法を何というか？
()
- (13) 領主に対して年貢の軽減や不正を働く代官の交代などを求め、認められない場合には城下に押し寄せるなど、農村で起きた直接行動を何というか？
()
- (14) (13)の際に中心人物をわからないようにするため、円形に署名した書状を何というか？
()
- (15) おもに江戸や大阪で、米の買い占めを行った商人に対して人々が集団で起こした行動を何というか？
()